

(平成三〇年七月一日) 掲載

「女人講中」銘のある

「小御嶽石尊大権現」石塔

蔵 由美

現在、八千代市下高野地区の総合研究を行っているが、その一環として先日、下高野の旧福蔵院(下高野公会堂)の裏山の富士講関連の石造物を調査した。

旧福蔵院は辺田道沿いの微高地に位置し、背後は標高二十メートル程度の下総台地となっていて、境内の大師堂裏には、明治二十三年奉納の「仙元大神」銘手洗石と昭和三年建立の「登山記念」碑があり、その奥の入口からつづら折りの登山道が造られ、登りきった台地の縁に嘉永二年(一八四九)建立の「仙元宮」石祠が祀られている。

この富士塚になぞらえた急峻な登山道の中腹には、木の根元に食い込むように、「小御口 石尊大権現 大天狗 小天狗」文久二年(一八六二)建立銘の総高五七センチの駒形石塔がある。

「石尊大権現」は相模の阿夫利神社の祭

神でもあるので、大山講の参拝供養碑と紛らわしく、この石塔も『八千代市の歴史・資料編』の石造物一覧表でも「大山講」に分類されているが、「小御(嶽)」の銘から富士山五合目の小御嶽神社の供養塔で、各地の整備された富士塚では主に五合目に配置される。「小御嶽石尊」塔は八千代市内では浅間社や富士塚などに八基あり、この下高野の石塔は八千代市内では最古である。

(*1)

下高野の「小御嶽石尊」塔で注目されるのは、正面の下部に右から横書きで「女人講中」と刻まれていることである。

木花咲耶姫を祀る富士信仰は、安産・子育てを願う子安信仰と不可分で、八千代市内でも七月の稲毛の浅間神社大祭に新生児や七歳児をお参りさせる風習が最近まで続いていた。下高野では、稲毛の浅間参りの前に、女性たちがこの「小御嶽石尊」塔の所まで登って、安産子育ての祈願をしていたという。

ところで、この塔が建てられた文久二年の前々年の万延元年(一八六〇)は、富士山出現の「庚申」の御縁年にあたり、富士山では女人禁制が解かれて女性の講の登頂が認められたという出来事があった。女性の登山は古来、二合目の小室浅間神社まで、

江戸期では御縁年の庚申年でも四合五尺の御座石仙元社までとされていたが、中には男装して登頂を試みる女性もいたという。

本来、富士信仰の元祖・食行身祿は、女人禁制に対して反対の立場で男女平等を説いていたことから、女性たちの登頂への願望は強く、この年に実際に女性が登頂した記念碑が埼玉県杉戸に建立されており、また鳩谷には女性の講の登頂を記す文書史料が残されている。(*2)

また足利富士浅間神社は、上の宮と下の宮の二社から成り、上を男浅間、下を女浅間と称し、下の宮には「小御嶽石尊」塔が祀られている。下高野の「小御嶽石尊」塔に「女人講中」と記したのも、従来の富士信仰と子安信仰のつながりに加えて、富士登山の盛隆という幕末の時代背景、そして地元の模範小富士でもせめて五合目の小御嶽までは女性も登山させ、富士山のご利益に浴させたいという村びとの意向の反映であったと思われる。

他に「小御嶽石尊」塔と女人講のつながりを示す石塔の事例があれば、ぜひご紹介いただければ幸いです。

*1 一〇一六山口忠『史談八千代』四一号

*2 竹谷鞠負『富士山と女人禁制』